

# IBAだより

## 第17号

《 茨城県吹奏楽指導者協会 》

令和4年10月4日発行

発行人 茨城県吹奏楽指導者協会会長 梶原征剛

事務局 水戸市緑町1-10-26 島田博正

## ごあいさつ

茨城県吹奏楽指導者協会 会長 梶原 征剛

私たち茨城県吹奏楽指導者協会（IBA）の最も大きな主催事業は「ソロコンテストいばらき」の開催であります。ところが、この数年「新型コロナウイルス」の影響を受けて、令和2年度は中止、3年度は無観客で音源（録画）審査となりました。そして、今年度は何となく、コロナ以前のように観客の前で演奏・審査する本来の姿に戻れるように祈り続けている、今日この頃であります。

このコンテストも今年で25回目を迎えて、今では、「吹奏楽コンクール」や「アンサンブルコンテスト」とともに、皆さん方の間に完全に定着したと思っています。そして、県の代表として選ばれた人たちが、例年、関東甲信越大会や全国大会において優秀な成績を収め、茨城県の管・打楽器のレベルの高さを全国に証明してくれていることは、皆さん方もよくご存知の通りであります。

これまで、私はこのコンテストの審査員を長くやってまいりました。そして、その中で気が付いたことを、この「IBAだより」に何度か載せてきましたが、今回は皆さん方が、このコンテストで選んだ曲、すなわち、『選曲』について一言申し上げたいと思います。

言うまでもなく、各楽器にはその楽器の特徴を最大限に生かした独奏曲が数多くあり、それぞれが、協奏曲、ソナタ、組曲、変奏曲などに分類されて多くの人々に親しまれています。これらの楽曲を少々乱暴な言い方を承知の上で分類すると、速いテンポで華麗なテクニックを披露する Allegro（急章）と、一方は、それとは正反対のゆっくりとした速度で、表情豊かな音楽の Adagio（緩章）の部分に分けることができます。そして、この両者がバランスよく配置されて楽曲は構成されているのです。

ところが、このコンテストでは一次審査（録音）の演奏時間が4分と言う制限があるために、ほとんどの楽曲が全曲を通して演奏することは出来ません。しかし、参加者の中には曲の最初からスタートしたために、これからは聴かせどころで制限時間となる例や、また、ピアノの前奏や間奏にかなりの時間を要して本領を発揮する前に時間切れとなるなど、例を挙げたらキリがありません。そこで、皆さん方へお願いしたいことは、演奏時間4分の中に上記で申しました、Allegroの音楽と Adagioの音楽をバランスよく取り入れて、原曲の特色を十分に生かすための方法（再構成・アレンジ）を考えて欲しいのです。もちろん、このことは音楽的には決して良いことではありませんが、制限時間4分と言う条件がある以上、この方法で最善を尽くして頂きたいと思っています。

最後になりましたが、私たち「茨城県吹奏楽指導者協会」（IBA）主催の「ソロコンテストいばらき」は発足以来、「（公財）げんでん ふれあい茨城財団」様との共催事業で開催して来て今年で25回目を迎えます。この間、コロナによる令和2年度を除き、休むことなく続けられたのは、ひとえに、当財団の方々からのご支援・ご協力の賜であり、この場をお借りしまして、心より感謝し、厚く御礼を申し上げる次第であります。

（茨城大学 名誉教授）

## 「ソロコンテストへの想い」

茨城県立水戸第三高等学校 石崎 羽夏

この度、ソロコンテスト関東甲信越支部大会第2位、全日本大会審査員須山芳博賞という素晴らしい賞を頂き、大変光栄に思っております。

初めてソロコンテストのことを知ったのは私が中学2年の時です。クラリネットを始めただけでまだまだ未熟でしたが、「もっともっと技術を高めて音楽の世界で活躍したい」との夢を抱き、以後これまで毎年チャレンジしてきました。

中学3年の時に茨城県代表として、初めて関東甲信越支部大会に出場しました。しかし入選できず、悔しくて涙を流しました。今回の大会、「全国大会に出場して後悔のない演奏をする」との強い覚悟をもって臨んだ最後のソロコンテストでした。

「ヴェルディのオペラ『リゴレット』による幻想曲」は、ずっと憧れていた曲である一方、レベルが格段に高く、大変苦労しました。技術的に難解なのは勿論、本来豊かなビブラートで表現されるオペラアリア作品を、クラリネットという楽器で表現することの難しさに直面し、試行錯誤を繰り返しました。多くの先生方にアドバイスを頂いたり、音源や実際のオペラを鑑賞したりして、音の方向性や音色の変化について研究し、自分のイメージした音楽が奏でられるよう努力をしました。関東甲信越大会、全国大会ともに本番は、緊張よりはむしろ、よく響くホールで思う存分演奏できるということがとても嬉しく、落ち着いて演奏が出来ました。途中悲しみの場面の最中、感情移入し自分でも泣きそうな気持ちになれたのは初めての経験で、演奏者として一つ自分の殻を破れたように感じています。この2年間コロナ禍で大会が中止になったり、無観客での開催が続いていたりする状況の中、今回聴いてくださった方々から温かな拍手をいただいたことに、感極まりました。

私にとってソロコンテストは成長のための大きな糧であり、音楽をもっと深く学びたいと思うきっかけとなった大会でした。毎回壁にぶつかり、上手くいかないこともありましたが、先生方のご指導のお陰で、乗り越えることが出来ました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、大変な状況下の中、大会開催に向けていろいろご尽力くださった関係者の皆様、本当にありがとうございました。そして、私が音楽の道で進むことを快く許してくれ、いつも側で支えてくれた家族と、中学生の頃からご指導頂き支えてくださっている先生には感謝してもしきれません。

これからも音楽が出来ることに感謝の気持ちを忘れず、自分らしく音楽と向き合い、沢山の方々に恩返しのできる立派な演奏家を目指していきたいと思っております。応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

【令和3年度ソロコンテスト全日本大会高校生部門審査員須山芳博賞受賞、  
関東甲信越支部大会高校生の部第2位受賞】

## 「第26回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」

JBA茨城県部会事務局長 古井 忍

全国大会は、令和4年3月28日（月）武蔵野音楽大学ブラームスホールに於いて、磯部修平、大井剛史、岡崎耕治、鈴木英史、須山芳博の各氏を審査員に迎えて開催されました。中高それぞれの部門には、各支部大会で代表となった中学生28名、高校生27名が参加し、関東甲信越支部・茨城県代表の県立水戸第三高等学校2年石崎羽夏<sup>はな</sup>さん（クラリネット）は、バッシ作曲：ヴェルディのオペラ「リゴレット」による幻想曲を演奏し、須山芳博審査員賞を受賞しました。緊急事態宣言等の制約を受ける中で練習に励まれ、立派な成績を残された石崎羽夏さんに心から拍手を送ります。

## 「環境に恵まれた中で音楽ができることの喜び」

水戸市立第一中学校 郡司 柑太郎

この度は、関東甲信越大会で審査員関口仁賞をいただくことができ、たいへん嬉しく思います。僕は、「もっとたくさんの人に音楽の魅力を知ってほしい」という思いから、ソロコンテストに出場することを決意しました。

今回演奏した「ソロ・ド・コンクール」は、フランスの作曲家であるアンドレ・メサジエによって、パリ音楽院クラリネット科の試験曲として作曲されました。この曲はテンポが速く、タンギングをしたときに、スラーと同じ息の流れで演奏することにとっても苦労しました。

日々の練習では、一つ一つの音の運指が確認できるテンポから練習をしました。また、リズムやアーティキュレーションを変えて、指に負荷がかかった状態でも正確に吹けるように練習しました。

なかなか納得のいく演奏ができず、ソロコンテストを辞退したくなることが何度もありました。大会が近くなると、自分の中で焦りが大きくなっていきました。しかし、そんな時に、練習する音を聴いていた家族や、クラリネットを教えてくださいながら先生がアドバイスをくれました。アドバイスをもらい、「上手に吹けない原因を冷静に考えて練習することができなくなっていた」ということに気付くことができました。また、他の人とは少し違った自分なりの音楽を創り上げていくことの楽しさ、支えてくれている人がいることへの感謝の気持ちを思い出し、練習に励むことができました。

本番では、「演奏を聴いてくれる人に音楽の魅力が伝わるように、自分自身も演奏を楽しもう」という気持ちがあり、あまり緊張せずに演奏することができました。全国大会への切符をつかむことはできませんでしたが、練習の成果を全て発揮でき、音だけでなく、吹く姿からも音楽の魅力が伝えられる演奏になったと思います。

ソロコンテストを通じて、音楽には、自分で考えて音楽を創り上げていく楽しさや人によって音色や表現の仕方が違うという面白さなど、いろいろな魅力があることを知りました。また、たくさんの方の支えがあって演奏に全力を尽くせることを改めて実感しました。今後も、賞をとることだけを目的とした演奏ではなく、音楽の魅力や感謝の気持ちが伝わる演奏を目指し、精進していきます。

【令和3年度ソロコンテスト関東甲信越支部大会中学生の部審査員関口仁賞受賞】

## 「第20回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト関東甲信越支部大会」

J B A茨城県部会事務局長 古井 忍

関東甲信越支部大会は、令和4年2月23日（水）昭和音楽大学ユリホールに於いて、岡田知之、清水大輔、関口 仁、樋口哲生、三浦 徹の各氏を審査員に迎えて開催されました。茨城県からは、菊池芽衣さん（泉丘中）、郡司柑太郎さん（水戸一中）、飯塚詩音さん（下館南中）、田波華和さん（東海中）、菊池羽紘さん（水戸一高）、大峽悠太さん（明秀日立高）、石崎羽夏さん（水戸三高）、落合宏介さん（明秀日立高）の中学生4名、高校生4名と小学生特別演奏の本多姫菜さん（三の丸小）が出場しました。

会場では中高それぞれの部門で、東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、長野、新潟の各都県の代表30名が白熱した演奏を披露しました。

中学生部門では、水戸一中2年の郡司柑太郎さん（クラリネット）が関口仁審査員賞を受賞しました。高校生部門では、水戸三高2年の石崎羽夏さん（クラリネット）が第2位で支部代表になり、全国大会出場を決めました。

茨城県代表の9名の方々は、コロナ禍の厳しい状況にも関わらず日頃の練習の成果を十分に発揮して、素晴らしい音と演奏を会場内に響かせました。

<< 事務局より >>

I B A事務局長 島田 博正

今年度のソロコンテストいばらき日程

- ソロコンテスト一次審査 R5. 1/7(土)・8日(日)・9(祝月) ひたちなか市文化会館(予定)
- ソロコンテスト県大会 R5. 1/28(土)・29(日) 東海村東海文化センター(決定)

昨年度は、県内5地区から526名の一次審査参加がありました。

一次審査については、例年どおり無事終了しましたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、県大会は無観客での実施としました。さらに、県大会参加者の皆さんには、音源(録画)データを提出していただき、東海文化センターを会場として音源(録画)審査を行いました。

その結果、例年どおり小・中・高の各部で、皆さん方それぞれが金賞・銀賞・銅賞のいずれかを受賞しました。また、げんでん音楽大賞を小・中・高の各部で各1名が、げんでん音楽賞を小学生4名、中学生5名、高校生6名が受賞しました。さらに、中学生4名・高校生4名が茨城県代表となりました。

今年度も数多くの皆さんが参加され、素晴らしい演奏を聴かせて下さることを期待しています。

CDの処理について

地区事務局にCDを送付する際、一次審査要項をよく確認するようお願いいたします。

音源(録画)データについて

県大会は、ステージ演奏を予定していますが、感染状況によっては音源(録画)審査となることも考えられます。各演奏者においては、音源審査と本人確認のための音源(録画)データを、県大会用の予備としてあらかじめ準備しておいてください。

令和3年度 第24回ソロコンテストいばらき 一次審査参加者数・県大会出場状況

	一次審査		県大会	
	参加者数	出場者数	参加者数	出場者数
小学生	県東			
	県南	1	1	
	県西	2	1	
	県北			
	県央	9	6	
	計	12	8	
中学生	県東	33	5	
	県南	61	11	
	県西	118	23	
	県北	42	9	
	県央	111	20	
	計	365	68	
高校生	県東	22	8	
	県南	42	13	
	県西	28	11	
	県北	12	6	
	県央	45	19	
	計	149	57	

「げんでん財団」は

ふれあいとゆとりある

地域づくりに貢献します

(公財) げんでん ふれあい茨城財団

日本原子力発電(株) 東海事務所内(東海村白方1-1) TEL. 029-287-1251  
水戸連絡事務所内(水戸市笠原町978-25) TEL. 029-301-1511